



Health

健康づくり

行方市健康増進課（北浦保健センター内）

☎ 0291-34-6200

全国的に麻しん（はしか）患者が増加しています！

今年に入り、全国で麻しん（はしか）患者数が253例（4月9日現在）報告されており、その数は、**昨年1年間の感染者数（232例）をすでに上回っています。**

麻しん報告の約8割は予防接種を受けたことがない、または予防接種を受けたかどうかわからない、かかったかどうかわからないというものであり、幅広い年齢層から報告がありますが、**特に定期予防接種を開始する前の0歳児（30例）及び予防接種を受けていない1歳児（23例）に多く報告が見られています。**

銚田保健所管内では患者の報告はまだありませんが、茨城県内では3人の患者が報告されています。麻しんの感染力はとても強いので、予防には予防接種が有効といわれています。

〈麻しん（はしか）〉

○どうやってうつる？

麻しんウイルスに感染した人に直接触ったり、その人の吐いた息や咳に含まれる唾液などからうつります。

○症状

感染して10～12日の症状のない期間があったあと、高熱、咳、鼻水が数日間持続し、口の中に小さな（約1mm）白い発疹ができます。熱は一度下がりますが、再び上昇し、その後体中に赤い発疹ができます。別の病気に同時にかからなければ7～10日後に回復しますが大人がかかると重症化します。

○予防

予防接種が有効です。効果的に予防するため定期予防接種として2回接種が行われています。

該当年齢で、まだ予防接種が済んでいないお子さんは、麻しん・風しん混合ワクチン（MR）予防接種をして、麻しんから身を守りましょう。

【定期予防接種】

MR 1期	生後12月～24月未満
MR 2期	5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間



※平成2年4月1日以前に生まれた方は、予防接種を1回しか接種していませんので、麻しんの抗体価が低いことが予想されます。一般的に麻しんの抗体価が低い人は、風しんの抗体価も低いといわれているので、麻しん・風しん混合ワクチン（MR）をおすすめします。また、麻しんの予防接種を受けたこともない、かかったこともない方の場合にも、麻しん・風しん混合ワクチンをお勧めします。